

〈シランとスズラン〉

シラン（紫蘭）とスズラン（鈴蘭）が咲き出した。シランはそのまま蘭の仲間だが、スズランはユリの仲間。シランは昔から栽培されていたそうだが未だに野生種か園芸種か分からないらしい。こんなに鮮やかで可憐な花なのに、どこにでもあるせいか見向きもされない。この花を拡大すればカトレヤになるではないか。そしたら、花屋で高値で売られるのに、丈夫で簡単に増えるので花としての価値は低い。おかしいものだ。希少だから、珍しいからとちやほやされ、どこにでもあれば知らん顔。花そのものの美しさを愛でたいものだ。



スズランは、園芸種のドイツスズランと在来の日本スズランがあるが、我が家の庭にあるのはドイツの方。花の中を見て赤っぽい色があるのがドイツだそうだ。高原に咲くイメージでとってもかわいい花。これも地下茎で良く増える。有毒なので北海道では“ウマクワズ”という別名もあり農家では歓迎されない。花はただ花の命を咲かせているだけなのに、人はそれに人の価値基準を当てはめ評価をする。自分の感性を大事にしたいと思う。

